

保護者のみなさまへ

吹田市立藤白台小学校  
校長 中田 美紀

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬(8月下旬)に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数、理科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

### 1. 教科に関する調査の分析

#### ●国語

##### 《概要》

- ・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことともに思考力・判断力・表現力は全国平均を大きく上回っている。
- ・知識・技能はやや上回っている。
- ・いずれの問題も大阪府ならびに全国平均を上回っている

##### 《各領域における成果と課題》

###### 言葉の特徴や使い方に関する事項

○話し言葉と書き言葉との違いを理解することは府・全国値を上回っている。

###### 話すこと・聞くこと

- ◎必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることは府・全国値を上回っている。
- △相手の立場や意図を把握し、話し合い、自分の考えをまとめることは府・全国値を上回るが半数の児童しか正答していない。

###### 書くこと

- ◎文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えて書くことは府・全国値よりも上回っている。
- △文章の全体像を把握し、表現の効果を考えながら、指定された文字数に収まるように、自分の考えをまとめて文章に表すことに課題があり4割程度の児童しかできていない。無回答も比較的に見られる。

###### 読むこと

◎登場人物の相互関係や文章内の表現の効果(直接的・暗示的)や描写に注意し、想像豊かに読み取ることができる。

##### 《今後の指導改善点》

###### 言葉の特徴や使い方に関する事項)

- ・授業の中では言葉を適切に用いながら、話し合いや学習活動を行っていきます。振り返りの場面を活用して自分たちの話し合いの様子を確かめたり、ノートにまとめたりしながら取り組んでいきます。
- ・読書活動を推進し、語彙数を増やすとともに文章を書く活動を他教科とも連動して行います。その際、文章の内容に即した資料の活用を指導を行っていきます。

###### 話すこと・聞くこと

- ・話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、様々な視点があることを知り、自分の考えを広げたりまとめたりすること進めていきます。その際、互いの立場や考えを尊重し、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力も培っていきます。話し合いの目的や方向性を確認しながら進めていきます。

###### 読むこと・書くこと

- ・自分の考えたことや伝えたいことを相手に伝えるように書くためには、次のような指導を行っていきます。
  - ① 読み取りの際には、登場人物の行動や会話、様子に目を向けさせてノートやワークシートにまとめたり交流して学びを深めていきます。
  - ② 「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読み、物語の内容に合致した文章を書く学習を行います。
- ・自分が書いた文章の良さを見つける指導も行います。互いの文章を読み合うことで言葉の選び方、書き方の工夫を認め合い、自分の表現に生かそうとする態度を養います。

## ●算数

### 《概要》

- ・平均正答率が、全ての領域において全国・大阪府値を上回っており、本校の取り組みの成果が出ている。
- ・「選択式」と「短答式」「記述式」といった回答形式に関わらず、正答率は全国・大阪府値と比較すると 10%程度上回っている。

### 《各領域における成果と課題》

#### 数と計算

- ◎四則計算の立式・計算の仕方を理解し、与えられた式の計算はできている。
- △「示された場面（目的に合った値段の見積りの仕方を考えよう）において、目的に合った数の処理の仕方を筋道を立てて考察できる。」について、全国・大阪府値を上回っているものの、ほかの問題に比べると、正答率が低く、無回答も多い。

#### 図形

- ◎「三角形や四角形の性質や構成の仕方について」など基本的な図形の性質については、概ね理解できている。

#### 変化と関係

- ◎百分率や割合に関する事項は概ね理解できている。
- △基本的な割合の考え方をもとに数や式と日常の具体的な場面を関連付けて考える場面においては、数量が変わっても割合が変わらないことを理解することに課題がみられる。無回答も多い。

#### データの活用

- ◎グラフの読み取りなど、データの活用に関する事項は理解できている。目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができている。

#### 《今後の指導改善点》

- ・解き方を覚えさせるのではなく、日常生活や身のまわりの題材を用いて体験的に求め、問題に対して多様な解き方を考え、それを互いに説明し合うことで、説明する力や記述力を養います
- ・算数科でも、文章の読み取りや理解したことを説明したり、文章題を作成したりするなどの言語活動を充実させます。また、社会科や理科、総合的な学習においても、グラフの読み取りを重要とし指導します。また、児童自身が調べたことをまとめる際にも、効果的なグラフ、資料の活用ができるように指導します
- ・四則計算の性質に着目し、計算の工夫を学ぶ単元だけでなく、その他の場面においても活用できるように指導してきます。
- ・算数科での学びが日常生活で目的に応じて具体的な場面で活用できるようにしていきます。そのためには得た知識を日常生活の具体的な場面で対応させながら活用できるように指導を行っていきます。

## ●理科

### 《概要》

- ・【知識・技能】 正答率が、概ね全国・大阪府値を上回っている。
- ・【思考判断表現】 正答率が、概ね全国・大阪府値を上回っている。

### 《各領域における成果と課題》

#### 粒子

- ◎目的に応じて器具や機器を選択し、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。
- △自分の予想と、観察、実験などから得られた結果や友だちの気づきをもとに自分の考えを記述することに課題がある。無回答も多い。

#### エネルギー

- ◎実験の記録や実験方法の改善し、自分の考えを持つことは、8割程度の児童ができています。
- △日光が直進することは、理解している児童が3割にとどまる。
- 自分が発想した実験の方法と、追加された情報を基に、事件の方法を検討して、改善し、自分の考えを持つことができるかどうかを見る問題において、約8割の児童が回答できている。

#### 生命

- △3割近い児童は、ナナホシテントウを上から撮影した写真を選んでおり、昆虫の体のつくりの理解に課題がある。
- ◎問題を解決するために自分で必要な観察の視点を持ち、問題を解決するまでの道筋を考え解決できる児童が9割以上である。

#### 地球を柱とする領域

- ◎冬の天気と気温の変化を基に問題に対するまとめを行うことは、9割ができていた。観察の結果を分析して、解釈し、自分の考えを持つことができている。
- △観察などで得た結果を、【結果から言えること】の視点から分析、解釈し、自分の考えを持つことは、全国よりは多く理解できているが、約6割の正解にとどまっている。自然現象の根拠に基づき、結果を分析し、解釈することに課題がある。

#### 《今後の指導改善点》

- ・観察、実験などの結果について自分や友達の考え方を比べて違いや共通点を見つけ、問題を解決しようとする態度を育てます。
- ・着目した問題を解決する際、タブレット型端末などを活用しながら複数の事象を関連させながら理解を深める学習活動を進めます。
- ・結論を導きだすとき、予想と照らし合わせながら観察や実験の結果を捉え、自他の考えを比較しながら多面的に考察を行い、問題を解決できる学習を行います。
- ・記録や具体的な数字を基に実験結果について、根拠を整理して聞き手に伝わるように説明する活動を行います。
- ・日常生活の現象について理科的な用語や考え方をを用いて表現する学習を充実させます。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【規範意識・自己有用感等について】

- ・「自分にはよいところがある」に当てはまる児童は、全国値を大きく上回っている。当てはまらないと回答した児童の割合は大きく下回っている。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」と答えた児童の割合は、全国・大阪値を上回っている。
- ・「将来の夢や目標を持っていますか」での児童の割合は、全国・大阪府値を上回っている。
- ・「学校に行くのは、楽しいですか」「いじめは、どんなことでもいけないことだと思いますか」「人の役立つ人間になりたいと思いますか」は、全国・大阪府値を大きく上回っている。
- ・「友だちと協力するのは、楽しい」児童は、全国値とほぼ同じである。

○日々の教育活動の中で、様々な課題にチャレンジする機会を設定してきた成果であると感じています。委員会活動や係り・当番活動において、児童がよくできていることを取り上げ、他の児童に広めるとともに、よりよく改善する方法を考えさせることを通して、今後も自己有用感を感じさせる機会を充実させます。

○学校に行くのが楽しいと答えた児童の割合が全国・大阪府値を大きく上回っていることはこれまでの教育活動の成果ととらえています。今後も魅力ある学校を目指し、子供たちが生き生きと活動する教育を進めていきます。いじめについては、重大な人権侵害であるということ認識し、担任をはじめ、教職員全体で子供たちを見守り、いじめを絶対に許さない学校風土をつくっていきます。

○学習活動の中で、周りの友達と協力して活動するような場を設定して、子供たちが他者と共同し、達成感を感じる機会を充実させます。

### 【基本的生活習慣等について】

- ・「携帯電話スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人とした約束を守っている」「携帯電話、スマートフォンで SNS や動画を視聴している一日当たりの時間が30分より少ない」児童の割合は、全国・大阪府値を上回っている。
- ・「朝食を毎日食べている」の児童の割合は、全国値を上回っている。

○ICT社会を生きる子供たちにとって、情報機器との付き合いは必須です。これまでも学校は、デジタルティーンシップ教育を行い、デジタル機器のより良い使い方について指導してきました。引き続き、ご家庭と連携して進めていきます。

○ご家庭の協力のおかげで、朝ご飯を食べている割合は今年度も高くなっています。早寝早起き・朝ごはんなど、健康的な生活の大切さを保健だよりや給食だより等も活用しながら、今後も伝えていきます。ご家庭におきましても学校の配付物等を活用していただきながら、子供たちが元気に活動できる環境づくりにご協力をお願いします。

### 【学習習慣等について】

- ・「学校以外で、1日当たり3時間以上、勉強をしている（学習塾や家庭教師の時間も含む）」児童の割合は、全国値を上回っている。ほとんどしない割合もみられるが、全国・大阪府値より低い。
- ・「授業以外で月曜日から金曜日一日当たり何時間読書を読みますか」では2時間以上の児童が全国・大阪府値よりも大きく上回っている。
- ・「新聞をほぼ毎日読んでいる」児童は全国・大阪府値よりも上回っている。

○学力の基本は日々の学習の積み重ねです。しかし、学習習慣の2極化が結果として表れていると考察します。家庭学習の基本は、まずは宿題です。学校では、宿題だけでなく、自主学習のすすめを取り入れて子供たちが自ら学習に取り組む態度を培っています。ご家庭におきましても学校の配付物などを活用していただきながら、お子さまへのお声かけを引き続き、お願いします。

## 【地域や社会に関わる活動の状況等について】

- ・「今住んでいる地域の行事に参加している」児童の割合は、5割を超え、全国値を上回っている。
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」児童の割合は、約6割と全国値を上回っている。

○コロナ禍という状況の中で地域行事の中止等が続いていましたが、少しずつWITH コロナの中での活動が再開され、6年生が地域において活動したい気持ちがあることはうれしい結果でした。中でも、地域や社会をよくしたいと思いを巡らせることができる子供たちが育っていることは、学校と一緒に地域の方々が温かく子供たちを見守ってきたいいただいたおかげであると感じます。これからも、地域行事などのお知らせの文書を配付する際には、行事の内容も知らせるなどして、子供たちが自分たちの地域に関心を持てるようにしていきます。

## 【教科の学習について】

- ・「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」と感じている児童の割合は、全国・大阪府値を上回っている。
- ・「算数の勉強は好き、大切だと思う」「算数の授業で学習したことを生活の中で活用できないか考える」「わからないときにあきらめずに考える」「公式を使うときに、そのわけを理解しようとしている」児童の割合も、全国・大阪府値より上回っている。
- ・「理科の学習が好き」という児童の割合は、7割を超えているが全国・大阪府値より下回っている。

○学習について、肯定的な回答が多くあったことは、子供たちが主体的、意欲的に学ぶために授業研究を続けてきた本校にとって、非常に成果を感じる結果であります。学習の中で、今後も国語や算数の学習が社会で役立つということ実感が伴うように、授業においても日常生活と関わる身近な事象を取り上げたり、日常生活と関わる問題や課題を設定したりしていきます。

○理科で学んだ学習内容を普段の生活の中に利用する場面を学習の中に取り入れながら、理科を身近に感じさせ、理科科学への興味関心を高めていきます。

## 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- ・学級活動や日々の学習活動、そして道徳の授業の中で「話し合う活動で、友だちの考えを受け止めて自分の考えを伝えていた」「課題解決に向けて自分から取り組んでいた」「自分の考えをまとめる、思いや考えをもとに新しいものを作ったりする、自分の考えを深めたり、広めたりする」等全国値より大きく上回っている。
- ・「自分と違う意見について考えるのが楽しいと思う。」は、8割以上の児童ができており、全国・大阪府値を上回っている。
- ・「わかった点やよくわからなかった点を見直し次の学習につなげる」ことを8割の児童が回答しており、全国値と同じである。
- ・「ICTを利用していますか。」については、大幅に全国・大阪府値を上回っている。

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善については、今年度も成果が出ている結果でした。本校の研究テーマである「主体的に考え、伝え合う学びの愉しさを見出せる子どもを育てる」という目標のもと、他者と考えを共有し、議論していく過程を大切に授業づくりをさらに進めていきます。

○一人一台タブレットの導入に伴い、授業場面でも様々な活用がされています。学習やコミュニケーションの便利なツールとしてのタブレットの活用が進んできている成果であると感じています。デジタルシティズンシップ教育の取り組みも2年目になります。タブレットの良さと問題点の両方を理解させ、良き使い手となるよう児童の育成に取り組んでいきます。タブレットが学習道具としてルールを守って使用し、活用していくことめざしてしっかり指導していきます。